

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスずいこう		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の児童の特性や発達段階に応じた個別支援計画の作成および支援の実施が適切に行われており、保護者からの信頼が得られている。	個々の児童の特性や発達段階を踏まえたアセスメントを行い、個別支援計画に基づいた支援を意識的に実施している。	個別支援の質をさらに高めるため、児童の変化や成長の様子について職員間で共有し、必要に応じて支援内容の見直しを行いながら、柔軟な対応ができるよう努めていく。
2	保護者との面談や日々の連絡等を通じて情報共有が図られており、安心して通所できる環境づくりができています。	保護者との連絡帳や面談等を通じて情報共有を行い、家庭での様子やニーズを把握しながら支援に反映できるよう取り組んでいる。	保護者との関係性を大切にし、日々の連絡帳や面談等を通じて情報共有を継続し、保護者が安心して相談できる環境づくりを継続していく。
3	職員間での支援計画の共有やモニタリングが定期的実施されており、チームとして支援に取り組む体制が整っている。	日々の申し送りや定期的な打ち合わせを通じて職員間で情報共有を行い、支援内容の統一と安全な支援の提供に努めている。	職員間の情報共有について、非常勤職員を含めた統一的な共有方法のさらなる充実を図る必要がある。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童数の増加等に伴い、活動スペースや静養スペースの確保に課題が見られる。	利用児童の状況や活動内容に応じたスペースの確保について、安全性および活動の充実の両立が図れるよう環境整備の検討を進めていく必要がある。	活動内容や利用状況に応じてグループ編成や活動時間の調整を行い、限られたスペースの中でも安全かつ充実した活動が行えるよう環境面の工夫を継続していく。
2	地域との交流や関係機関との連携機会について、十分とは言えない部分がある。	地域との交流や関係機関との連携について、児童の社会参加や支援の幅の拡充につながる取組を段階的に進めていく必要がある。	地域や関係機関との情報交換の機会を意識的に設け、児童の社会性の向上や支援の幅の拡充につながる取組を段階的に進めていく。
3	職員間の情報共有について、特に非常勤職員を含めた統一的な共有方法のさらなる整備が必要である。	職員間の情報共有について、非常勤職員を含めた統一的な共有方法の整備を進め、支援の統一性をさらに高めていく必要がある。	職員間の情報共有について、記録様式や申し送り方法の見直しを行い、非常勤職員を含めた統一的な共有体制の整備を進めていく。